

1 腭形質細胞腫の1 経験例

2
3 ○嶋田隆宏 須藤一久 小池修司 鎌形久美子 川村浩
4 彰 宮崎由紀子 (千葉県立佐原病院)

5
6 【はじめに】腭形質細胞腫の1 例を経験したので報
7 告する。

8 【症例】患者は50 歳代女性、心窩部痛を主訴に他院
9 受診し、精査の結果腭形質細胞腫が疑われ、宗教的
10 理由で無輸血手術を希望され当院紹介となった。当
11 院での生化学検査では、TP の著明な上昇がみられた。
12 腹部超音波検査では腭体部に形状不整な充実性の低
13 エコー腫瘤を認め、血流は豊富であった。CT におい
14 ても同様の腫瘤性病変がみられた。

15 【肉眼所見】腫瘍は腭体尾部に大きさ15×14×7cm
16 の腫瘤を形成しており、剖面上結節癒合型をなす腫
17 瘍で、白色調部分とやや透明感のある赤褐色調部分
18 が混在し、膨張型の腫瘤ではあるが腭組織との境界
19 は不明瞭であった。

20 【細胞所見】腫瘍部捺印標本のパパニコロウ染色で
21 は、ライトグリーン好染の細顆粒状物質を背景に、
22 核偏在した細胞が単調に出現していた。核は濃染し、
23 円形から類円形で、二核のもの核小体が目立つもの
24 もみられた。メイグリュンワルド・ギムザ染色では
25 細胞質は好塩基性で核周囲明庭がみられ、ラッセル
26 小体様の空胞をもつものもみられた。

27 【組織所見】組織学的所見として、細胞所見と同様
28 の細胞がびまん性充実性に増殖し、奇怪な核を有す
29 るもの多核の細胞もみられた。大型の細胞にはラッ
30 セル小体を有するものも認められた。免疫組織学的
31 にはCD138 陽性、CD20 陰性、CD3 陰性で、腫瘍細胞
32 の胞体内にκ 鎖の単一性染色がみられ、形質細胞腫
33 と診断された。

34 【まとめ】比較的稀な腭形質細胞腫の1 例を経験し
35 た。本症例の細胞所見を中心に組織所見と合わせて
36 報告する。